放送番組センターレポート
BROADCAST LIBRARY Report

2018.07 No.35

（公財）放送番組センター

〒231-0021 横浜市中区日本大通11 横浜情報文化センター
TEL.045-222-2881 FAX.045-641-2110
http://www.bpcj.or.jp/

TOPICS 今号のトピックス

■公開セミナー　ラジオを楽しむ！〔7〕
■フジテレビ セットデザインのヒミツ展２
■2018　春の人気番組展、番組を視聴する会
■民放・ＮＨＫ合同番組上映会と大学での番組利用
■放送ライブラリー公開番組の紹介
■理事会・評議員会報告

■公開セミナー ラジオを楽しむ！〔7〕

３月１７日、公開セミナー ラジオを楽しむ！〔７〕を開催した。今年度は、クオリティの高い知的教養番組として高い評価を受け、日本放送文化大賞ラジオ部門グランプリほか、数々の賞を受賞した、ミュージックドキュメント 井上陽水×ロバート キャンベル『言の葉の海に漕ぎ出して』（ＴＯＫＹＯ ＦＭ／ 2016.11.23放送／※以下、『言の葉の海』と表記）を取り上げた。

［ゲスト］ロバート キャンベル（日本文学研究者）
　　延江　浩（TOKYO FM プロデューサー）
［司　会］石井　彰（放送作家）

番組鑑賞の前に、司会の石井氏の「ラジオは、自分の頭の中で映像を描かなければならない。その映像は誰一人として同じではない。これがラジオの楽しさであり、イマジネーションの素晴らしさである。今日は、普段使っていない脳の神経を働かせて、心地良い疲れを持って帰って欲しい」という挨拶から始まった。

その後、『言の葉の海』と同じく、ロバート キャンベル氏が出演、延江氏がプロデュースした、ボブ・ディラン ノーベル文学賞受賞記念『The Times They Are a-Changin' ～時代は変わる～』（2016.10.23放送／※以下、ボブ・ディラン特番と表記）を鑑賞。この作品は、受賞の発表から僅か１週間余りで制作、放送された。共に、ボブ・ディランの大ファンであるミュージシャンの小室等氏とロバート キャンベル氏の対談により、ボブ・ディランの歌詞の文学的側面や、ボブ・ディランがノーベル文学賞を受賞した意味を探った。

続いて、『言の葉の海』を鑑賞。この作品は、キャンベル氏が入院して何もする事が出来なかった時に、毎日、井上陽水の歌を聴き、その歌詞を１曲ずつ英訳する事を日課とした事から始まった。英訳を進めるうちにキャンベル氏は、日本語の曖昧な表現に頭を抱える事となり、井上陽水本人にその疑問をぶつけた。番組では二人の対談を通じ、井上陽水の楽曲のオンエアや歌詞の朗読を交えながら、歌詞の世界を読み解いた。

鑑賞した２番組は『言の葉の海』の放送が先に決まっていたが、ボブ・ディランの受賞報道を受け、急遽、特番を制作した。延江氏が「編成を強引に説得して枠を取り、スポンサーなしでやった」と明かすと、キャンベル氏が「私も背中を押した。今聴くと、その年の様々な出来事がそのまま色濃く刻まれている。私が『エキップ延江』と呼んでいる（エキップはフランス語でチームの意味）スタッフは、集まりさえすれば、次々と良いアイデアが出てくる。機動力が非常に素晴らしい」とスタッフとのチームワークや信頼関係を語った。

『言の葉の海』について、キャンベル氏は「退院した時、５０曲の英訳が手元にあったが、言葉が継げない、埋め込むことができない所があった。陽水さんと会い、『飾りじゃないのよ涙は』の『赤いスカーフは誰のものか』など直に聞いたが、その時は完全に肩透かしで、全然取り合ってくれなかった」と振り返ると、延江氏が「（その話を聞いた時に）これは音で表現できると思った。その後、キャンベルさんと私と波状攻撃で事務所にアタックし、ようやく出演ＯＫの返事を貰った。いざスタジオを用意しても、当日まで陽水さんが来るか不安だったが、来た途端に二人の四角いリングが始まり、キャンベルさんがボディブローを繰り返し、陽水さんが何度も休息に消えたりしながら３時間位収録した」と番組誕生

までの苦労や収録の様子を語った。

キャンベル氏が「この番組は、陽水さんの『あのう』とか『まあ』、沈黙など、普通は切れ端として捨てていくものが全部残っている。今日、聴いて改めて延江さんたちの編集の凄さを感じた」と言うと、石井氏が「そのある種の間（ま）、余韻を生かそうとしている一方で、

とても緻密に計算されている。場面が転換する時にどんな音を入れるのか、また、ウディ・ガスリーの歌だけはレコードで流れ、ザーと回る針の音が入っている。綺麗な音のＣＤではなく、ここはレコードを使うという延江さんたちの思いがラジオの向こうから伝わってきた」と番組の音へのこだわりを称えた。更に、キャンベル氏が「『飾りじゃないのよ涙は』で、陽水さんが私に『それは面白いね、これに一票』と返した時に、凄く戸惑った。本来なら、編集して欲しい私の『うっうっ』とか『あっあっ』という言葉を全部使い、その後ろにザワザワした音、ＳＥがある。キャンベルが、陽水さんの言葉を素直に受け入れるべきかを決めかねている事を表現するために、後ろに音をつけているのだと思う」と言うと、延江氏が「この番組に関しては余白を活かす事を徹底した。９秒以上は放送事故だが、８．５秒まで敢えてやった。そこに空気が生まれ、リスナーが、キャンベルさんが戸惑っている、陽水さんが困っているかもしれない、という考えが生まれる」と番組が目指した思いを語った。

ここでキャンベル氏が『とまどうペリカン』の英訳を披露し「（英訳に苦労した歌とは逆に）陽水さんの歌の中には、英語から翻訳したかのような、英語がそのまま落とし込める

歌が、いくつかある。但し、翻訳しやすいが、何を言っているかよくわからない」と話すと、石井氏が「わかりやすいからこそわからない。陽水さんの多くの歌は、わかりにくいからこそ、一人ひとり共通ではないが、何か受け取るものがある。番組の中で、陽水さんがキャンベルさんに、たじたじになったのは、今まで陽水さんに対して、『この歌の意味はこうなのか』『これは誰なのか』『赤いスカーフの持ち主は誰なのか』と聞いた人が居なかったから。陽水さんがこんなに喋るのを初めて聴いた。陽水さんを、緊張しながらも心地よく解き放ったのは、キャンベルさんとの今までの信頼関係だと思う。同時に、陽水さんが思いもつかない所から球がくるので『どうしよう』と言っている間に陽水さんが空振りしたという感じに聴こえた。番組を聴いていて、楽しかった。わくわくした」と作品の魅力を語った。このキャンベル氏の５０曲の英訳をまとめた本が、今秋出版される。

セミナー冒頭で石井氏は、本日、二つの番組を繋げて聴く事により、見えてくる世界があると思うと会場に投げかけたが、ここで、「二つの番組を並べて聴くと、ディランと陽水の共通項がたくさんあると感じた。一つは、とても曖昧な言葉を使っているので、様々な解釈ができる。それと同時に歌の中に必ず対立を持ち込んで物語を展開させている。更に、時代の空気を凝縮して取り込んでいる」と述べると、キャンベル氏も「本日初めて並べて聴いて、二人の共通点を感じる事が出来た」と同様の感想を語った。更に、延江氏が「ディランと陽水さんが似ている

のは、二人ともコンサート、肉声を大事にしている事。ディランは年に２００回コンサートをする。陽水さんも同じで、インタラクティブな部分を大事にする。そこが二人の時局性にも繋がっている」と続けた。

セミナー終盤には、ラジオを聴く人が少なくなっている現状、若者のラジオ離れにラジオ局としてどう対応していくか、ネットラジオなど通信形態への移動、コミュニティ形成に今もラジオが大きな力を持っているアメリカとラジオ離れが進む日本との違いにまで話が広がった。

セミナー終了後、「ラジオでこれほど良質で中身の濃い番組がある事を初めて知った」「音だけで伝えられる世界の広さを改めて認識した」など、ラジオを心地よく鑑賞し、その魅力に触れた参加者から、多くの感想が寄せられた。

■フジテレビ　セットデザインのヒミツ展２

２月23日～４月８日、「フジテレビ セットデザインのヒミツ展２～月９ドラマ30年の軌跡～」を開催した。昨年同様、美術デザインを切り口に、今年度は、放送開始30周年を迎えた月曜９時放送の連続ドラマ枠「月９ドラマ」に焦点をあて、その歴史を振り返ると共に、番組を魅力的に見せるテレビ美術の工夫を紹介した。ヒストリーエリアでは、年表と共に、今回の企画展のために集められた、30年間に放送された全126作品の台本を一堂に展示した。その他、月９を象徴する作品の代表カットや映像、懐かしい作品の衣裳や小道具も展示され、来場者の注目が集まった。

昨年度放送された３作品は、実際のセットや小道具、デザイン画等を展示した。『貴族探偵』エリアでは、来場者の多くが、番組に登場した「玉座」に座り、出演者と同じポーズを取って撮影を楽しんだ。『コード・ブルー』エリアでは、医局や崩落事故現場のセットを再現。来場者は、発泡スチロールで作られた小道具のがれきを実際に持ち上げ、美術の工夫を体感した。『民衆の敵』エリアに再現された主人公の住む団地のセットには、登場人物の役割に合わせた室内の装飾の数々など、細部までデザイナーのこだわりが感じられた。

３月21日は、「月９」に関係の深いデザイナーたちを講師に招き、「セットデザインのヒミツツアー」を開催。制作時の裏話やこだわり等、貴重な話が次々と語られた。

会期中、全国各地、また海外からも来場者が訪れ、総来場者数は２万6000名、一日平均来場者数は歴代４位の667名となり、好評だった昨年をさらに上回る結果となった。

■2018 春の人気番組展

４月20日～６月３日、地上８局、ＢＳ７局の協力を得て、恒例の「春の人気番組展」を開催した。各局の新番組や人気番組のポスター、台本、関連グッズ、番組で使われた衣裳、セット模型、デザイン画などを展示した。今回は、テレビ朝日『帰れマンデー見っけ隊！！』やテレビ東京『池の水ぜんぶ抜く大作戦』の大型パネルなど、記念撮影を楽しめるスポットが多く設置された。また、フジテレビ『コンフィデンスマンＪＰ』の劇中で使用された衣裳、ＴＢＳ『花のち晴れ』のセット模型、日本テレビの新ドラマのセットデザイン画など、普段見る機会の少ない展示物の数々を熱心に見る来場者の姿が多くみられた。

来場者からは、「全てのテレビ局のポスターが見られるので、毎回楽しみにしている」「家に帰ってから番組を見るのが楽しみになった」「今後も続けて欲しい」等の感想が寄せられた。

■番組を視聴する会　沖縄慰霊の日を前に

６月５日から17日まで、放送ライブラリー９階の情報サロンで「沖縄を伝える・記録する・考える」と題した番組を視聴する会を開催した。今回は６月23日の『沖縄・慰霊の日』にちなみ、沖縄の民放各社とＮＨＫが制作した戦争・平和関連の番組６本を取り上げた。上映番組は以下の通り：大作の制作に取り組む画家夫妻に密着した『日曜美術館　いくさ世の画譜　丸木位里・俊　おきなわを描く』（ＮＨＫ・1984）、資料館の展示変更をめぐる問題を取材した『テレメンタリー2000　語る死者の水筒　～さまよう沖縄戦の遺品～』（琉球朝日放送・2000）、歌とともに平和へのメッセージを届ける『Ｆｏｒ　ＰＭ　トヨタサウンドロード　慰霊の日企画　さとうきび畑』（エフエム沖縄・2002）、米軍上陸直前に赴任した県知事の足跡をたどるドキュメンタリー『悲しいほど海は青く　沖縄戦最後の知事　島田叡』（沖縄テレビ放送・2003）、戦後生まれの記者たちが沖縄戦について取材した『ＲＢＣザ・ニューススペシャル　慰霊の日　戦後69年　私たちの眼差し』（琉球放送・2014）、高齢化した証言員の後継者育成の取り組みを紹介する『ひめゆりの心　証言者たちの25年』（ラジオ沖縄・2015）。

■民放・ＮＨＫ合同番組上映会と大学での番組利用

【広島・長崎合同番組上映会】

広島と長崎のＮＨＫ・民放テレビ局と放送ライブラリーが共催で開催している戦争・平和関連番組上映会は、今年度も８月中旬に広島平和記念資料館と長崎原爆資料館での開催を予定しており、現在準備を進めている。また６月１日に広島市で開催された平成30年度「電波の日・情報通信月間」記念式典で、本上映会の取り組み等が地域情報の発信に多大な貢献をしたとして、ＮＨＫ広島放送局と広島の民放テレビ局４社が、「中国総合通信局長表彰」を受けた。

【大学教育での番組利用】

30年度前期は、次の４校の授業で番組が利用された。東京工芸大学芸術学部映像学科「放送史Ｉ」（丁智恵助教）にラジオ番組２本とテレビ番組13本が、三重短期大学生活科学科生活科学専攻「医療福祉論」（武田誠一准教授）にテレビ番組１本が、上智大学文学部新聞学科「デジタルアーカイブ論」（柴野京子准教授）にテレビ番組15本が、長崎県立大学国際社会学部国際社会学科「映像ジャーナリズム論」（村上雅通教授）にテレビ番組４本が、それぞれ利用された。

■放送ライブラリー公開番組の紹介

放送ライブラリーではテレビ番組16,410本、ラジオ番組4,412本、テレビ・ラジオＣＭを11,071本、劇場用ニュース映画2,683項目を横浜の施設内で一般に無料公開している。平成30年３月から５月に追加公開した主な番組は以下の通り。

【テレビ番組】

◇『しあわせ食堂　笑顔と孤独と優しさと／第30回民教協スペシャル』2016年２月11日放送・青森放送

◇『松本清張　二夜連続ドラマスペシャル 坂道の家』2014年12月６日放送・テレビ朝日

◇『大江戸事件帖　美味でそうろう』2015年12月4日、５日放送・ビーエス朝日

◇『ＳＢＣスペシャル　棄民哀史』2015年５月27日放送・信越放送

【ラジオ番組】

◇『東京園の中村さん』2015年７月26日放送・横浜エフエム放送

◇『ＦＭＫ熊本地震復興応援プロジェクト ゾウに会える幸せ　熊本市動植物園の12ヶ月の想い』2017年４月16日放送・エフエム熊本

■理事会・評議員会を開催

【第１回理事会　５月31日】

平成29年度事業報告ならびに収支決算案、関係法の改正に対応する定款変更案、30年度定時評議員会の議案を承認した。この他、理事会決議を伴う委員交代、今期で理事を退任する久保伸太郎氏ならびに松尾羊一氏に顧問を委嘱することを決定した。更に、７月１日付で大家博紀総務・事業グループ主幹を事務局長に任命することとした。

【定時評議員会　６月22日】

次期役員22名を選任した。理事は５名、監事は１名が新任となる。また、定款の変更、29年度事業報告および決算報告を承認した。

＜平成30・31年度役員＞

会　　長　村上光一
専務理事　山内　弘
常務理事　松舘　晃
理　　事　池端俊策（日本脚本アーカイブズ推進コンソーシアム代表理事）［新任］
一本　哉（日本テレビ放送網取締役常務執行役員）［新任］
今井通子（医学博士・登山家）
黄木紀之（日本放送協会理事）
岡室美奈子（早稲田大学教授・坪内博士記念演劇博物館館長）［新任］
音　好宏（上智大学教授）
片桐正之（全日本シーエム放送連盟専務理事）
河内一友（毎日放送会長）
木田幸紀（日本放送協会専務理事・放送総局長）
國分幹雄（ＴＢＳテレビ常務取締役）［新任］
堂元　光（日本放送協会副会長）
中村行宏（テレビ神奈川代表取締役社長）
波多野宏之（駿河台大学名誉教授）
福浦与一（全日本テレビ番組製作社連盟理事長）［新任］
福田俊男（テレビ朝日顧問）
藤久ミネ（評論家）
渡邊眞次（弁護士）
監　　事　松居　径（日本放送協会関連事業局長）［新任］
渡邉敬夫（公認会計士）